

---

# Angel Beats! another one

神名

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Angel Beats! another one

### 【Nコード】

N7345S

### 【作者名】

神名

### 【あらすじ】

アニメの最後の後の少しの話

死後の世界を否定する考えを持つもの答え

(前書き)

こんな考えもあると思い、衝動的に書いてしまいました  
書いた時間が2時間すらありません



「まだ誰か居るのか？」

この世界にはすでに自分しかいないと音無は思っていた。  
NPCであるこの世界の住民は数日前の戦いで全員『影』になつたと考えていた。

人間だった人々も音無たちの想いに応えてくれて、全員成仏したと思っていた。

なのに、誰かが音無を校内放送で呼び出した。

「まさか、本当に神がいたのか!？」

その考えが浮かんだ瞬間、音無は呼び出された宿直室に走りだしていた。

「はぁ…はぁ…」

全力で走って息を切らして、肩を上下させながらも部屋の前まで辿り着いた。

音無は息を飲んで、ドアノブを回した。

キィッと音を立ててドアはゆっくりと開いた。

「あれ？」

けれどそこはただの宿直室で誰もいなかった。

「誰もいないのか？」

不審に思いながら、音無は部屋に踏み込んだ。

そこは簡易キッチンがあり、部屋の隅に布団が畳んで置かれている普通の宿直室だった。

キョロキョロと部屋を見回していると声が聞こえた。

「下だよ下」

「下？」

声が出た方を見るとそこには怪しげな線があった。その線は四角になっていて取っ手が付いていた。

「この先か」

音無はしゃがみ込んで取っ手を勢い良く引っ張った。

蓋が開いた先には梯子があった。

「降りろってことか。」

「待ってるよ」

音無は梯子を降りて入った。

降りた先にはまた扉があり、それを開けると一組の机と椅子があった。

机の上には一台のパソコンがあった。

椅子の上には一人の青年が音無が開けた扉に向かって座っていた。

「お前が俺を呼んだのか？」

「そっだよ」

音無の問いに青年は人の良さそうな笑顔で言った。

「なんで俺を呼んだ？」

「お前も前世の未練があるのか？」

「未練？」

「そんな物ないよ」

音無の問いに小馬鹿にしたように笑いながら答える。

「だったらなんでこの世界にいる！？」

「だったら君も未練があるのかい？」

「ぐっ…」

未練がない。

なのにこの世界にいることを不審に思い、問うが逆に聞かれてしま  
い音無は黙った。

「僕は君と同じなんだよ」

「俺と…同じ？」

「そっ、同じ」

青年は音無と同じと言った。

「僕も前世の記憶なくしていたんだ。

だから、この世界で何をしたらいいのかわからなかった」

「それは…」

確かに音無と同じだった。

この世界に来たときは音無もお記憶を無くしていて、どうしたらいいかわからなかった。

戦線のリーダーであるゆりっぺに導かれ、自分がどんな人生を送ってきたか知った。

そして、この世界の真実を知り、他の皆にも知って欲しかった。

そして、その為に行動して、遂にそれは叶った。

「僕は君たちの誰よりも早くにこの世界に来たんだ。

それで普通にNPCである一般生徒たちと一緒に学校に通ってたんだ。

だけど、最近の君たちを見ていて僕も思い出したんだ」

語りだした最初は笑顔だったが段々と無表情になっていった。

それに伴い、嬉しそうな声色が機械のような冷たい声になっていった。

「僕もね、君と同じようにこの世界に来る人間じゃなかったんだ」

「それは…」

それを自分と同じように最後には報われた人生だったんだと音無は思った。

けれど、青年が音無の言葉を遮って続きを言った。

「僕は何の未練もやり残したこともない人生を送っていたんだ」

「どういうことだ？」

未練も何もなかったならこの世界に来なかったはず…

なのに、この世界にいる。  
それがどういう意味か理解できなかった音無は問うた。

「僕はね、一回この世界に来ていたんだ」

「何!？」

「つまり、この世界は二度目。」

この世界で報われて、人に転生した。

そして、死んでまたこの世界に来た」

「……………」

二度目…

その事実が音無を驚愕させ、何も言えなかった。

「ここに来た理由の未練はその時の未練だった。

そして全ての記憶を思い出してここにいるんだ」

「だったらなんでまた次の人生を送らないんだ？」

音無は当然の疑問に至り、青年に問う。

「それはこの世界でやりたいことがあるんだ」

「この世界で…やりたいこと?」

「音無くん、君はこの世界をどう思う?」

「え?」

突然の質問に音無は不意を突かれた。

そして、少し考えて答えた。

「俺は前世で出来なかったことを出来る世界だと思っ。

そうだな、神様の優しさだと思っ」

「優しさ…?」

音無の答えにどう思ったのか、青年は音無の言葉をブツブツと繰り返している。

「優しさ？」

出来なかったことを出来る世界？

そんないいものじゃない！」

音無の答えに呟いていたがいきなり大きな声を上げて否定した。

「そうだな！」

僕も最初はそう思ったよ！」

青年はさらに大きな声で続けた。

「僕もこの世界で未練を消化し、転生して次の人生に向かった！」

だけど、僕は前世の記憶を持って転生したんだ！」

「そ、それがどうしたんだ？」

青年には先程までの笑顔はなく、凄まじい形相で音無を睨んでいた。青年の勢いに押されて音無はすこし後ずさりながら問うた・

「絶対に死なない！」

したいことが出来る世界が死んだらあるんだぞ！？

だったら僕達が送っていた理不尽な人生ってなんなんだよ！？

理不尽だから頑張って幸せになろうともがいていたんだろ！？

「そうだけど…」

青年の勢いに負けて音無は声が小さくなっていた。そんな音無に気づく気配もなく青年は言い続けた。

「だけど、こんな世界があることを知っていたら何も出来なくなつた！  
どうせ頑張らなくても未練があつたらこの世界に送られる！  
そう思ってしまった僕は人生が楽しくなくなつた！  
何も頑張らなくなつてしまつた！」  
「それは……」

音無も青年の考えを思つてしまつた。  
幸せになると、誰かのためになるうとする。  
だけど、死なないし、いくらでもやり直せる世界がある。  
それを知っていたら果たして自分は未練にならないように精一杯頑  
張れるだろうか…

「だから僕は決めた！！」  
「何を決めたんだ？」  
「この世界を消すのさ！」  
「何だつて!?!」

そこまで言つて青年は肩で息をしながら落ち着いた。  
世界を消す。  
その考えに驚愕して目を見開いた。

「僕はこんな世界無い方がいいと思う。  
だから消すんだ」  
「でも、どうやって？」  
「それは君たちが教えてくれたよ」  
「俺達が？」  
「『影』だよ」

数日前まで戦っていたか『影』。

NPCにあるソフトでそう書き換えインストールされたられていた。  
そこに至り、ある考えが浮かんだ。

「まさか!?!」

「そう、この世界アンインストールするを消すのさ」

「そんなことが…」

確かに人を書き換えるソフトはあったがこの世界を変えることが出来るとは思わなかった。

「それで、どうするかい？」

「僕を止めるかい？」

「いや…」

音無はそう聞かれてすぐに答えられなかった。

確かにこの世界は未練が消化できて、良いと思う。

だけど、その為に人生で無気力になっては意味が無いと思う。

「僕はね、こんな風にやり直せる世界は無い方がいいと思うんだ。

だって、人生は一度きりだから頑張るんだと思う。

そりゃあ、嫌なことや酷いこともあるだろうけど…

でも、だからこそ幸せに向かって頑張れると思う」

青年は自分の考えを述べる。

先程のような怒りに撒き散らすのではなく、真摯に自分の考えを言う。

「…うん、俺もそう思うよ。」

人生は一度だから頑張って生きるんだよな…

やり直しが出来ないから人生は楽しんだよな…」

「うん、僕の考えを理解してもらえるかい？」  
「ああ、俺もこんな世界無い方がいいと思う。  
この世界はすごく居心地が良い。  
だけど、樂園は永遠じゃないから尊いんだ」  
「ありがとう…」

二人は互いに共感し、頷きあった。  
そこでまた再びこの世界に地震が襲った。

「これがそのためのことだったのか…」  
「そうだよ。」

この世界はもうすぐ無くなる。  
だから君は早く成仏するといい」  
「君はどうするんだ？」

君『は』といったことで音無は問うた。

「僕はいいよ…」  
本当にこの世界がなくなるか見届けたいし。  
それに、僕はもう人生は十分だよ。  
だからここで消えるよ、この世界と一緒にね」

そう言って、青年は最初に見せた笑顔を音無に見せた。  
その顔には諦めが宿っていた。

「だめだ！  
お前も一緒に逝くんだ！  
せつかく人生を実感できるようになったんだろ！？」  
「いいんだよ、僕は…  
君に導いて欲しいんだ。」

現世で生きる人達を…

この世界に囚われた人たちを救ったんだから…」

「ふざけるな!？」

一緒に逝くぞ!」

そう言っつて音無は青年に手を伸ばすが、先程から起こっている地震で天井が崩れてきて阻まれた。

「待て!？」

待ってくれ!

まだ救われなれないといけない奴がいるんだ!」

音無は叫ぶ。

一番人生のことを理解した奴が居なくなる。

そんな悲しいことを認められなかった。

だから更に音無は手を伸ばす。

だけど青年がいたところには次々と石が積み上がっていた。

そして、この世界が消える瞬間…

誰かがの手が自分の手を握った気がした…

そして、音無の意識は消え、この世界は真っ白に染まった。

かくして死後の世界は消えてしまい、もう二度とあの世界に誰かがいくことなくなった。

一人の青年が街を歩いていた。

もう二度と歩みを止めることはない。

彼は如何に人生が辛くとも、悲しいことがあつたとしても、精一杯今の人生を楽しんで生きて行くだろう。

そして彼は人々に言う。

どんなに辛い人生でもどんなに酷い人生でも諦めずに生きていればいつか幸せになると信じていると…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7345s/>

---

Angel Beats! another one

2011年10月7日07時03分発行